

東京デフリンピック

東京デフリンピック第10日は24日、駒沢陸上競技場などで行われ、陸上で日本は佐々木琢磨(仙台大職)がアンカーを務めた男子400リレー1、村田悠祐(仙台大)が2走の男子1600リレーとともに金メダルに輝いた。男子円盤投げは湯上剛輝(トヨタ自動車)が58.93の大会新記録をマークして制した。空手は個人組手で女子61kg級の小倉涼(埼玉・特別支援学校坂戸ろう学園教)が2連覇。男子60kg級の森健司(立命大)は銅メダルだった。テニスの女子ダブルス決勝は菰方里菜(島津製作所)鈴木梨子(NTT都市開発)組が、宮川百合亜(日大)杉本千明(京都外大西高)組との日本勢対決を6-1、6-2で制した。競泳男子100リレーバタフライの茨隆太郎(SMBC日興証券)は2位で、今大会5度目の表彰台。女子200リレー平泳ぎの串田咲歩(県岐阜商高)は3位に入った。卓球団体の日本は女子が銀メダル、男子は銅メダルだった。

男子リレー「金」二つ獲得

400 佐々木加速 後続置き去り



男子400リレー決勝 日本のアンカー佐々木(手前)が3走坂田からバトンを受ける。金メダルに輝いた

陸上男子400リレーは、日本が昨年樹立した世界記録41秒15に迫る41秒22で、2大会ぶりの金メダルを手にした。今大会二つ目のメダルとなったアンカー佐々木は「皆さんの応援で走り抜くことができた」と感謝を口にした。米国との優勝争いとなった最後の直線。ほぼ同じタイミングでバトンを受け取ると、「勝てるぞ」とエネルギーが湧いてきた。爆発的な加速でライバルを置き去りにし、終わってみれば0秒47差。100リレーメダリストの貴族を見せつけ、仲間を頂点に導いた。日本は、佐々木とともにダブルエースの山田(びあ)を1600リレーにた。ゴール後、佐々木は手話を基にした応援スタイル「サインエール」を観客に求めた。スタンドも一体となった光景に「感動した。この瞬間を間近に見られて良かった」。デフ陸上をけん引してきた佐々木の「聴覚障害を知ってほしい」という切実な願いが、届いた瞬間のように思えた。(北村早智里)

村田「夏冬メダル」達成 1600

陸上男子1600リレーは、巧みなバトンパスで勢いに乗った日本が3分17秒00で金メダルを獲得した。2走村田は昨年行われた冬季デフリンピックのアルペンスキー大回転の銀メダリスト。日本人初となる夏季、冬季両方でメダル獲得を達成し、「成し遂げた人がいない『二刀流』を目指してきた。本当にうれしい」と喜びを爆発させた。冬季大会が終わって間もなく陸上に切り替え、ひたむきに競技に打ち込んできた。男子400リレーのアンカー佐々木をはじめ、仙台大陸上部の聴覚障害のある仲間たちに支えられたといい、「自分の力だけでは達成できなかった」と感謝した。



男子1600リレー決勝 金メダルを獲得した日本。2走村田(左)が3走荒谷にバトンを託す